

## 深圳レポート

### 2026年現在、Bluetoothイヤホンの市場概観

5月28日、市場調査機関GfKは2026年4月の中国オーディオ市場に関する調査データを発表した。当該データによると、華為（ファーウェイ）のBluetoothイヤホンは売上高シェア26%（出荷台数ではない）で国内首位となり、シェア25%の米アップル社を初めて上回った。これはTWS（完全ワイヤレスステレオ）イヤホンというカテゴリーが登場して以来、中国ブランドが国内売上高で初めてアップルを逆転したことになる。一方で世界市場の動向を見てみよう。

#### 世界市場：①成長率の鈍化、製品カテゴリーの構造的な分化が続く

2025年の世界のパーソナルオーディオ市場（Bluetoothイヤホン、有線イヤホンなどを含む）の総規模は412.3億米ドルに達し、2026年には479.1億米ドルに拡大すると予測される。その中でBluetoothイヤホンは業界の絶対的な主力であり、TWS（完全ワイヤレスイヤホン）、OWS（オープン型イヤホン）、ヘッドバンド型Bluetoothイヤホンなどのカテゴリーを網羅し、市場シェアの7割以上を占めている。

出荷台数を見ると、2025年の世界のTWS（完全ワイヤレスイヤホン）の年間出荷台数は4.1億台を突破するものの、カテゴリーの成長率は一桁台に鈍化し、業界は正式に高成長期を終え、規模が大きく、成長が安定し、構造が分化している成熟段階に入っている。調査機関の予測によると、2026年の世界の全カテゴリーにおけるBluetoothイヤホンの総出荷台数は5億台を突破する見込み。既存市場の影響により、全体的な増加幅は限定的であり、成長の原動力は主にOWS（オープン型イヤホン）の普及および海外の新興市場に依存することになっている。

#### ②主要企業の市場シェアと順位の変化

世界のTWS（完全ワイヤレスイヤホン）市場の競争構造は、「一超複強（トップ1社+複数の有力企業）」および「業界エコシステム主導」という特徴を顕著に示している。スマートフォンメーカーは、基盤となるシステムプロトコル、マルチデバイス連携、そして膨大な端末保有台数を武器に、従来のオーディオメーカーに対して圧倒的な優位性を確立している。

テクノロジー市場調査・コンサルティング機関であるCanalys/Omdiaによる2025年通年の総合推計データ、および市場調査機関Smart Analytics Global (SAG) が発表した2026年第1四半期のデータを基に、世界の主要企業の順位変動と中長期的な推移を下記のように整理している。

#### ● 第1位：アップル（Beatsを含む）——揺るぎないエコシステムの覇者

アンドロイド陣営からの攻勢に直面しているにもかかわらず、アップルは依然として世界のTWS（完全ワイヤレスイヤホン）市場で首位を堅守している。2025年通年では、アップル（Beatsブランドを含む）の世界市場シェアは約22.5%となり、年間総出荷台数は9,200万台を突破し、業界をリードし続けている。2026年第1四半期には、AirPods（エアポッド）シリーズ単体の出荷シェアが23%に達し、売上高シェアは世界のTWS（完全ワイヤレスイヤホン）市場の44%を占め、ハイエンド市場における支配力をさらに強化している。

アップルの競争優位性は、iOSエコシステムの閉鎖性と高いユーザー定着率、そしてHシリーズチップが持つノイズキャンセリング、空間オーディオ、AI処理能力における世代差による優位性にある。AirPods Pro 3がAI翻訳や健康モニタリング（心拍数、体温、さらには聴力補助など）に注力するにつれ、アップルはイヤホンを「オーディオ周辺機器」から「健康とAIのコアなウェアラブル入口」へと再定義しつつあり、200ドル以上のハイエンド市場における同社の独占的地位は、今後相当な期間にわたって揺るぎないものとなるだろう。

#### ● 第2位：シャオミ（Xiaomi）——新興市場における「価格破壊者」であり、グローバル化の先駆者

シャオミは、ここ2年間の世界ランキングにおいて、最も目覚ましい成長を見せているブランドである。2025年通年では、シャオミの世界TWS（完全ワイヤレスイヤホン）市場シェアは10.8%に上昇し、世界第2位の座を確固たるものにした。2026年第1四半期に入り、海外の一部市場における競争の影響を受け、シェアは11%へと小幅に後退したものの、依然として世界第2グループのトップに位置している。

シャオミの成功の秘訣は、究極のコストパフォーマンス（Redmi Budsシリーズ）と強力なグローバル流通網にある。東南アジア、ラテンアメリカ、中東、アフリカなどの新興市場において、シャオミは中小の無名メーカーのシェアを継続的に圧迫し、世界的なTWS（完全ワイヤレスイヤホン）の普及を牽引する中核的な存在となっており、新興市場における基盤は非常に堅固している。

#### ● 第3位：サムスン/Beats——順位は集計基準や製品サイクルにより変動

2025年通年、サムスはGalaxy Budsシリーズを武器に世界第3位の座を堅守し、年間市場シェアは約6.8%を記録した。Galaxyスマートフォンエコシステムと欧米市場におけるブランド認知度を基盤に、競争力を維持している。2026年第1四半期に入ると、製品の世代交代サイクルや地域間の競争激化の影響を受け、サムスのシェアは引き続き圧迫され、世

界トップ5から脱落している。

同期間、アップル傘下のBeatsブランドを単独で集計すると、8%の市場シェアを獲得し、世界第3位に浮上した。Beatsはアップルグループのサプライチェーン、ブランド力、トレンド志向を活かし、若年層や欧米市場を主力として攻め、AirPodsとの二本立て戦略により、アップル系全体の競争優位性をさらに拡大している。サムスンは今後も、イヤホン分野におけるGalaxy AIの実装を反撃の核心としていく見込み。

#### ● 第4位・第5位：華為（ファーウェイ）とboAt——地域の大企業によるグローバル化への野望

ファーウェイは2025年の年間世界市場シェアを5.2%で安定させ、2026年第1四半期も4%～6%の範囲を維持し、世界第4位の座を堅守した。同社は「NearLink」技術とHarmonyOSエコシステムを基盤に、超低遅延およびマルチデバイス間でのシームレスな接続において強固な技術的優位性を確立し、中華圏および主要な海外市場で目覚ましい成果を上げている。

インドのローカルブランドであるboAtは、地域トップの優位性を維持し、2025年通年のシェアは約5.8%、2026年第1四半期のシェアも安定しており、世界第5位にランクインしている。インドおよび南アジア市場における絶対的な支配力を背景に、地域ブランドが世界ランキングで躍進した典型的な事例となっており、グローバル展開は引き続き推進されている。

さらに、ソニー（Sony）、JBL（米国）、EDIFIER（中国）などの伝統的なオーディオメーカーは、主流の価格競争を避け、プロ仕様の音質分野や中～高級セグメント市場に注力し、差別化された製品力を武器に強力な収益力を維持している。

#### 中国市場：世界的な成長の原動力

中国は、世界最大級のBluetoothイヤホン消費市場の一つである。2025年の国内Bluetoothイヤホンの年間出荷台数は1,213万7,000台に達し、前年比6.9%増となる見込みである。市場規模は2024年の600億7,300万元から634億100万元へと拡大する。2026年には、国内のBluetoothイヤホン市場規模は719.22億元を突破し、前年比で約13%増加すると予測されている。

メーカー	2025 年		2024 年		前年同期比増加率(%)
	出荷台数 (百万台)	市場シェア (%)	出荷台数 (百万台)	市場シェア (%)	
1. シャオミ	16.5	13.6%	14.1	12.4%	17.4%
2. ファーウェイ	13.6	11.2%	12.6	11.1%	8.1%
3. EDIFIER	12.7	10.5%	10.9	9.6%	17.2%
4. アップル	8.8	7.2%	5.8	5.1%	52.2%
5. vivo(中国)	7.1	5.9%	4.7	4.2%	50.9%
その他	62.6	51.6%	65.6	57.7%	-4.5%
合計	121.3		113.7		6.9%

2025年の国内Bluetoothイヤホン市場における各セグメントの動向。

◆ TWS(完全ワイヤレスイヤホン)：市場の基盤となるカテゴリであり、年間出荷台数は7,721万台で、依然として業界の主力カテゴリである。

◆ OWS(オープン型イヤホン)：年間出荷台数は2,996万台、前年比20.2%増となり、現在最も成長率の高いセグメントである。

◆ オーバーイヤー型ヘッドホン：年間出荷台数は878万台、前年比26.3%増となり、市場は力強い回復を見せている。

◆ ネックバンド型イヤホン：製品形態の進化、利用シーンの縮小、メーカーのリソース配分の変化などの要因により、市場は徐々にニッチ化に向かっている。

#### 技術トレンドと業界の転換点：未来を再構築する4つの原動力

#### ● LE Audio低消費電力オーディオ技術の全面的な商用化

2026年は、Bluetooth LE Audio技術が本格的に普及する重要な年となるであろう。新しいBluetooth 6.0規格はLE AudioおよびLC3コーデックプロトコルを搭載しており、デバイスの消費電力を約40%削減すると同時に、音質を最適化し、バッテリー駆動時間を延長している。

これに対応するAuracastブロードキャストオーディオ機能は、単一のオーディオソースから複数のBluetoothヘッドセットへの同時オーディオ伝送をサポートし、空港、ジム、会議室などの公共の場で導入され、新たな利用シーンを切り拓くことになっている。

#### ● AIとの深い融合：「音声を聞く」から「スマートアシスタント」へ

AI機能は2026年のBluetoothイヤホンの主要な競争分野となり、年間の世界AIイヤホン市場規模は74.2億ドルに達すると予測されている。業界の主要プレイヤーの展開路線は分岐しており、アップル、ファーウェイ、OpenAIはそれぞれ異なるAIの実用化の方向性を打ち出している。

字節跳動(バイトダンス)、Meta(メタ、米国)、Anker(中国)などの企業も相次いで参入している。Bluetoothイヤホンは、単なるオーディオハードウェアから、独立したAIスマート端末へと徐々に変貌を遂げつつある。

#### ● OWS(オープン型イヤホン)の爆発的な成長

OWS(オープン型イヤホン)は、耳に挿入しない、装着感がない、周囲の音を聞き取れるといった特長を活かし、スポーツや通勤など多様なシーンに適應できるため、2026年に最も潜在力のある市場セグメントとなる見込みである。2025年第3四半期の世界のOWSイヤホン出荷台数は1,000万台を突破し、前年同期比で69%という高い伸び率を記録、その成長率は従来のTWS(完全ワイヤレスイヤホン)を大きく上回った。

#### ● 健康モニタリング機能が差別化競争の新たな次元となる

心拍数、体温、聴力保護などの健康モニタリング機能は、中～高級Bluetoothイヤホンの標準装備となりつつある。同時に、Bluetooth LE Audio技術を活用することで、Bluetoothイヤホンは補聴器関連機能へと拡張が可能となり、医療・健康分野への参入を通じて、異業種間の成長の余地を切り開くことができる。

## ロボットで建設現場の未来を築き、匠の技で新時代を切り拓く

社名	北京方石机器人有限公司		英語名	fangshitech	
代表者	李思橋	URL	<a href="https://www.fangshitech.com/">https://www.fangshitech.com/</a>		
所在地	北京市北京经济技术開發区科創三街18号院1号楼6層6A-16				
売上(RMB)	-	従業員(人)	-	創業年	2019年
登録資本金	565.0685万人民币元				
サービス内容	産業用ロボットの製造、産業用ロボットの設置・保守、スマートロボットの研究開発など。				

中国国家统计局のデータによると、この10年間で中国の建設業界における出稼ぎ労働者は累計1,500万人減少している。現在の建設業界は、労働力の急激な流出、熟練工の不足や従業員の高齢化という問題が日増しに深刻化している。そのため、「人手不足」に直面する状態では、スマート化・グリーン化への転換を加速させ、「機械による人手代替」が業界にとって不可欠な選択肢となっている。

北京方石机器人有限公司(以下、「方石ロボット」)は2019年に設立され、多分野の先進技術を融合させた「エンボディドAI+大規模AIモデル」のソリューションを開発している。スマート建設ロボットの研究開発と実用化に注力し、中国における建設ロボット分野の先駆的リーダー企業として位置づけられている。同社は、建設業界が抱える労働力の高齢化や、危険で非効率な作業といった課題の解決に注力し、従来の建設モデルから、高効率かつ安全なスマート建設への転換を推進している。

### 「エンボディドAI+建築用大規模AIモデル」で建築ロボットを再定義

方石ロボットは、「標準化製品+パラメトリック適応」というモデルを採用し、床工事、壁面処理、タイル張り、スマート点検を網羅する全シーン対応の製品ラインナップを構築している。さらに、自社開発の「アルゴシステム(Argus system)」と建築用大規模AIモデルを組み合わせることで、「実景認識+スマート計画+ロボット実行」というループを実現している。

**エンボディドAI+建築用大規模AIモデル技術:**国内初の建築シーン専用大規模AIモデルを開発。マルチモーダル知覚とエンドツーエンド強化学習を融合させ、建設現場の複雑な環境に適応し、自律的な意思決定および作業計画能力において業界トップとなっている。

**アルゴス・インテリジェントセンシングシステム:**3D再構築、マルチラインLiDAR、4カメラビジョンを統合し、空間デジタル化の相対精度は1.2cm、絶対精度は3cmを実現。15分で単一住宅タイプの全工程にわたるスマートプランニングを完了している。

### 市場の需要を原動力とし、基盤技術の汎用性と製品機能の差別化を両立

方石ロボットは「現場のニーズを原動力とし、市場規模を尺度とし、技術の実現可能性を最低ラインとする」という事業展開のロジックに従い、施工サイクル全体をカバーするモジュール化された製品ラインナップを段階的に構築している。

**床施工ロボットシリーズ:**4輪レーザー床均しロボットおよび2ディスク式仕上げロボットは、インテリジェントなレーザーレベル調整アルゴリズムとワイヤレス制御シャーシ技術を採用して

おり、無人での自律的高精度施工を実現。施工効率は1時間あたり400~600平方メートルに達し、平坦度の誤差は5mm以内に抑えられている。

**塗布・研磨一体型ロボット:**パテの塗布・研磨、エマルジョン塗料の噴霧といった多機能を統合。3.3メートル/4.5メートルの2種類のアーム長により、住宅内装から商業建築まで幅広く対応。施工効率は人手の5倍以上、人件費を90%削減し、住宅および商業プロジェクトで大規模に導入済み。

**タイル薄貼りロボット:**軽量かつ高負荷対応のロボットアームと全方向移動式シャーシを搭載し、47.5kgのタイルを運搬可能。タイル用接着剤を自動塗布し、高精度に貼り付け、目地の精度はミリ単位を実現。1日あたりの施工面積は120平方メートルで、大判タイルの施工課題を解決している。

現在までに、全方石ロボットは国80以上の都市で事業を展開している。海外において、製品は中東、ロシア、インド、東南アジア、北米、オーストラリア、日本など多くの国や地域に輸出されており、国内でいち早く建設ロボットの海外ビジネス化を実現した企業である。

自社開発の先端技術による競争優位性、大規模な実用化能力、そして広大な市場展望を背景に、方石ロボットはトップクラスの資本から高い評価を得て、2026年5月に約1億円のシリーズA資金調達を完了している。本ラウンドの調達資金は製品の研究開発、量産体制の構築、および海外市場への展開に充てられている。

技術のブレークスルーから大規模な実用化へ、国内のイノベーションからグローバル展開へと、建設業界は「人的労働主導」から「スマート技術主導」へのパラダイムシフトを遂げつつある。方石ロボットは、最先端技術によって建設現場を再構築し、業界が抱える課題を解決しており、今後もイノベーションを原動力とし、技術を基盤として、スマート建設分野に注力し続け、世界の建設業界の変革と高度化に向けて「中国のソリューション」を提供し、中国のスマート製造産業の新たな一章を刻んでいくことであろう。



## AIが爆発する時代で、仏門の名山は参拝者数が記録を連続更新

2026年に入り、全国の注目が各ハイテク企業の最新の人型ロボットデモ動画に集まっている一方で、別のあるデータは静かに次々と歴史的記録を更新しています。

中国風景名勝区協会が発表したデータによると、2025年に中国の主要な仏教名山が受け入れた観光客総数は初めて4,000万人台を突破し、前年比約8.6%増加しています。中でも中国四大仏教名山の参拝者数は、いずれも過去最高を記録しました。

杭州市内の宅配便がすでにドローンで配達され、深センでは無人運転タクシーが街中を走り回っているという時代に、普陀山の栈橋から出る航路は10分間隔に増便され、都市部からの「願いごとをする人々」を満載した船がひっきりなしに到着している風景となっています。

AIがほぼすべての「どうすればいいか」という問いに答えられ、人型ロボットがまもなく各家庭に普及しようとしている現代にあって、なぜ人々はかつてなく「見えず触れもしない香」にすがりたくなるのでしょうか。

普陀山(ふだざん)は、観音菩薩の道場とされ、四大仏教名山の中でも独特の島嶼風景と神秘的な仏教文化によって、現在では参拝者から最も人気を集める光スポットとなっています。

公式統計によれば、2024年の浙江省普陀山観光区は延べ1,230万6,400人の参拝者・観光客を迎え、観光収入は101億1,300万元に達しました。そして終わったばかりの2025年には、この熱狂は冷めるところどころかさらに激化しました。1日あたりの平均観光客数は3万5,700人に達し、四大仏教名山の観光客数トップの座を堅持しています。

九華山(くげざん)は、地藏菩薩の道場であり、「大願」を主としています。データによれば、この「願いを発する」場所が、プレッシャーを抱えた都市部のホワイトカラー層をますます引きつけています。

安徽省九華山風景区は2024年に圧巻の成績を残しています。通年の観光客数は1,055万9,000人、前年比12.8%増。観光総収入は140億元、同14.4%増加しました。

九華山の山道では、天台寺へ向かうロープウェイの待ち時間がしばしば2時間を超えるようです。列に並ぶのはほとんどが合肥、南京、杭州などの都市圏から来たホワイトカラー層です。彼らは背広ネクタイ姿ですが、手には仕事や学業の成就を祈る赤いリボンをしっかりと握りしめています。九華山では、実に82%

唯来企業管理諮詢(深圳)有限公司  
副總經理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。  
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



の観光客が再訪を選び、中には1年に何度も訪れる人もいるとのことです。

五台山(ごだいさん)は、文殊菩薩の道場であり、古来「智慧第一」の仏教聖地とされ、多くの人にとって学業や知恵を求める場所でもあります。親の教育競争が日増しに激しくなる今日、「知恵を求める」絶対的な聖地である五台山の人流は、現在の中間層の集団的焦りを如実に反映しています。

山西省五台山風景区の2024年の累計観光客数は691万3,800人、入場券収入は7億9,600万元に達し、いずれも過去最高を更新しました。入山総人数は前年比14.29%増で、これも過去最高を塗り替えています。

峨眉山(がびさん)は、普賢菩薩の道場であり、「行願」(願いを発するだけでなく、自ら実践に移すこと)を表します。その観光客数は四大仏教名山の中で最も多いわけではないですが、独自の文化的・生態的魅力があります。

四川省樂山市の公式年鑑統計によれば、2024年の峨眉山風景区の観光客数は467万2,000人で、2023年よりやや減少(約1.6%減)しています。ただし、2023年は観光業がコロナ後力強く回復した「ピーク年」であり、その高いベースの影響下でも峨眉山は470万人近い大きな人流を維持しました。

近年AI技術の大爆発を経験した後、多くのホワイトカラーは技術が自分の仕事を代替するのではないかと心配するだけでなく、壮大な技術の物語の中で個人の小ささと無力さを感じているでしょう。

「癒し需要」と呼ばれるこの爆発は、直接的に驚異的な人の流れに転換されました。ChatGPT、Sora、人型ロボットの進化ニュースが人々の認識を更新し続ける中、別のパラレルワールドでは、普陀山の1日あたり3万5,700人の受け入れ、九華山の年間1,000万人超の観光客数規模、そして五台山の2年連続二桁成長が、圧倒的な「信仰経済」の絵図を描き出しています。

この矛盾が渦巻く時代にあって、宗教施設は近代化・テクノロジー化によって淘汰されるどころか、むしろ人々が反脆弱性を高め、慰めを求める「避難所」となっています。

先週末に普陀山に参拝に行ってきた筆者を含め、人々は深い信仰ゆえに香を手向けるのではありません。見逃せない未来に直面して、今この瞬間の内なる確かな存在感を証明するために、一筋の煙をどうしても必要としているでしょう。



深圳未来创新服务中心  
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区粤海街道海天二路 19 号盈峰中心ビル 2301  
TEL:86-135-3089-3085  
<https://micsz.jp/>